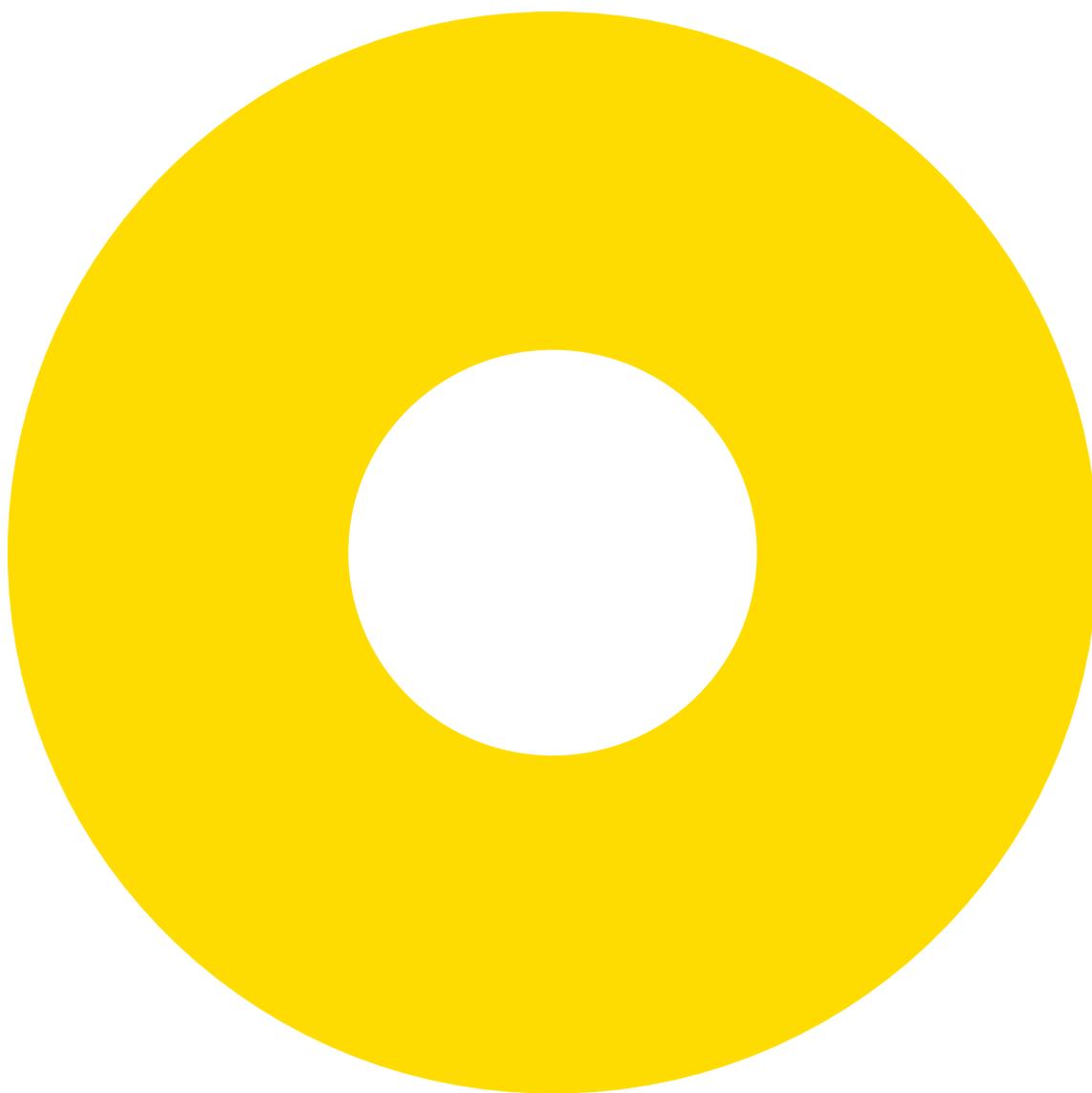


GOLDWIN

CSR REPORT



ゴールドウィンCSRレポート 2010

この報告書は2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日)の活動を中心に、一部直近の活動を含みます。

トップメッセージ

ゴールドウインは社会に役立つ企業を目指します。

「人々の暮らしをもっと楽しく、健康的に。ゴールドウインは、スポーツフルなライフスタイルを創造し、提供する。」という企業理念のもと、私たちはスポーツを通して豊かな健康社会を実現することを使命としております。平素よりお引き立てをいただいておりますステークホルダーのみなさまに、当社の企業活動により一層のご理解と共感をいただけますように、CSR（企業の社会的責任）を経営上の重要課題と位置づけ、継続的な企業価値向上と、迅速かつ的確な意思決定に基づく効率性、透明性、健全性を重視した経営に務めております。

今年度は創業60周年の節目の年にあたりますが、スポーツを軸にした当社の企業活動を通して社会的な責任を果たせるように、より一層の自覚と努力をしまっている所存であります。今年から始めた従業員の自転車通勤奨励の取り組みは、社員自らが健康市場を自らのライフスタイルの延長として作り上げるといった社員の思い入れに加え、それにともなった正しいルールとマナーの啓蒙を行うという、当社の事業と関連した地球環境保全への取り組みであり、本業を通じたCSRの実践と考えております。

当社はスポーツ用品の製造から販売の過程において、「GREEN IS GOOD」という環境テーマを掲げ、環境負荷の低い材料の積極的な調達や、ポリエステルやナイロンといった化学繊維を循環して使用する「循環型リサイクル・システム」を推進しています。また、長く使用していただく事が最大のエコであるという考えのもとに、「丈夫で、使い勝手が良く、機能的で、修理ができる商品や使用後は再生できる商品」の提供に取り組んでおります。

なお、当社はISO14001の認証を取得しておりますが、省資源活動や環境配慮型商品の開発だけでなく、従業員ひとりひとりの活動に至るまで環境を意識した活動をとっております。

「ものづくり」という事業領域を通じてお客様に信頼され続けるためには、お客様の気持ちを実感し、お客様の望まれるものをタイムリーに提案することが必要です。また、アウトドアのような自然の中で行う活動においては、自然というフィールドに配慮したものづくりも求められます。お客様の気持ちを実感するためにも、自らスポーツに取り組み、自分たちが生み出した商品を手にしてみることも。当社が、就業中の自社製品着用を推奨しているのはそのためです。

また従業員が心身ともに健康であることも重要です。仕事と私生活のバランスがとれた企業風土を率先して構築することは、スポーツを通じた健康を推奨する企業に課せられた大きな使命であると認識しております。

ゴールドウインは、自らの事業領域を通じて、社会に役立ち、社員の自己実現が達成出来る企業を目指して努力してまいります。



株式会社ゴールドウイン

代表取締役社長 西田明男

CSRに関する基本的な考え方

ゴールドウイングループCSR方針

スポーツを通じて、人と社会、地球環境との調和をはかり、持続可能で豊かな社会の実現に寄与します。

「スポーツ」は自然をフィールドとして行われます。自然が破壊され環境が汚染されることは、すなわちスポーツを楽しむ環境「スポーツフィールド」の消滅を意味します。ゴールドウイングループは、次世代のためにも「スポーツフィールド」を維持することに全力を尽くします。それが社会、ひいては当社の発展につながるからです。

長く安心して使えるモノやサービスの提供、企業統治／リスクマネジメント体制の充実も、環境保全と並んで発展には欠かせません。これらによってステークホルダーのみならず信頼を得ることが、当社にとってのCSR推進活動の基本となっております。

CSR推進体制

当社の役員および関係会社代表が出席する「CSR推進委員会」を設置。CSR推進委員会で決定された基本的な活動方針は、グループ従業員全員に徹底され、各部門および個人レベルで具体的な活動を推進します。

ゴールドウイン企業理念

スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること
We Provide Sportful LIFE.

人々の暮らしをもっと楽しく、健康的に。ゴールドウインはスポーツフルなライフスタイルを創造し、提供していきます。

私たちの使命

頂点を極められるギアを提供するスポーツアパレルメーカーとして、スポーツ各分野において最高レベルの機能を持つ商品を開発していきます。

- ① 次世代の育成
次世代の子どもたちにスポーツの楽しさを伝えていきます。
- ② 健康
スポーツを通じて心と身体の健康を応援します。
- ③ 地球環境
持続可能な社会の発展に貢献します。
- ④ 全員参加での取り組み
優れた商品は優れた従業員から生れるとの理念のもと、事業運営を進めていきます。
- ⑤ 企業倫理の遵守
企業統治／リスクマネジメント体制の充実をはかるとともに、企業倫理の遵守を徹底します。

社会とともに持続的に成長していくために

ゴールドウイングループは、昨年に引き続きCSRに対する取り組みを、すべてのステークホルダーのみなさまにご紹介します。CSRレポート2010では、「ものづくり」という事業領域を通じて、社会とともに持続的に成長していくための取り組みを、テーマ別にご紹介します。

このレポートを通じて、ゴールドウイングループについてより多くのことを知っていただき、コミュニケーションのきっかけにいただけたら幸いです。本レポートならびに当社のCSR推進活動に対するご意見、ご感想、ご要望などもお待ちしております。当社のCSR推進活動は、まだ始まったばかりですが、「身の丈にあった、継続的で、全員参加によるCSR推進活動」をモットーに、これからも積極的に取り組んでまいります。

なお、環境面への配慮から本レポートは印刷せず、当社ホームページのみでの公開としております。

報告範囲

対象期間：2009年月から2010年3月における情報を集積しました。

対象範囲：ゴールドウイングループ全16社を対象としております。

発行日：2010年6月26日

発行責任者：管理本部 CSR推進室 CSRレポート編集室

主要コミュニケーション媒体

ゴールドウイングループホームページ：<http://www.goldwin.co.jp/>

CSRレポート：<http://www.goldwin.co.jp/corp/csr/index.html>

会社情報：<http://www.goldwin.co.jp/corp/info/outline.html>

目次

トップメッセージ . . . P02

CSRの基本方針 . . . P03

CSR経営／ガバナンス体制 . . . P05

コーポレート・ガバナンス体制を整備、内部統制システム、コンプライアンス教育を継続的に実施

お客様とともに . . . P08

「トップアスリートとともにある」ものづくり、「トップの技術とともにある」ものづくり、「匠の技とともにある」ものづくり、「シーンの垣根をこえる」ものづくり、過去事例を今後活かす品質体制、本格的な修理体制、委託先の生産品質を改善、CSR調達に着手、接客ロールプレイングコンテストの開催

従業員とともに . . . P13

健康的に働ける職場環境、スポーツを通じた社員同士の交流、健康促進を目的とした「クッキングセミナー」

地球環境とともに . . . P16

環境基本理念、環境方針、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証取得、「エコテックス規格100」の認証を取得、2009年度の重点取組実施、環境を考える製品開発コンセプト「GREEN IS GOOD」、商品購入を通じて植樹「ワンプロダクトワンツリー」実施、エコをテーマとした国内唯一のトーナメントに特別協賛

地域社会とともに . . . P21

次世代のスキーヤーを育成する「ナスターレース」、次世代にスポーツの楽しさを伝える「MIPスポーツ・プロジェクト」、中学生の職場体験「14歳の挑戦」を支援、「シャブラニール＝市民による海外協力の会」に協力、ビーチクリーン／清掃ボランティアによる地域貢献

会社情報 . . . P25

コーポレート・ガバナンス体制を整備

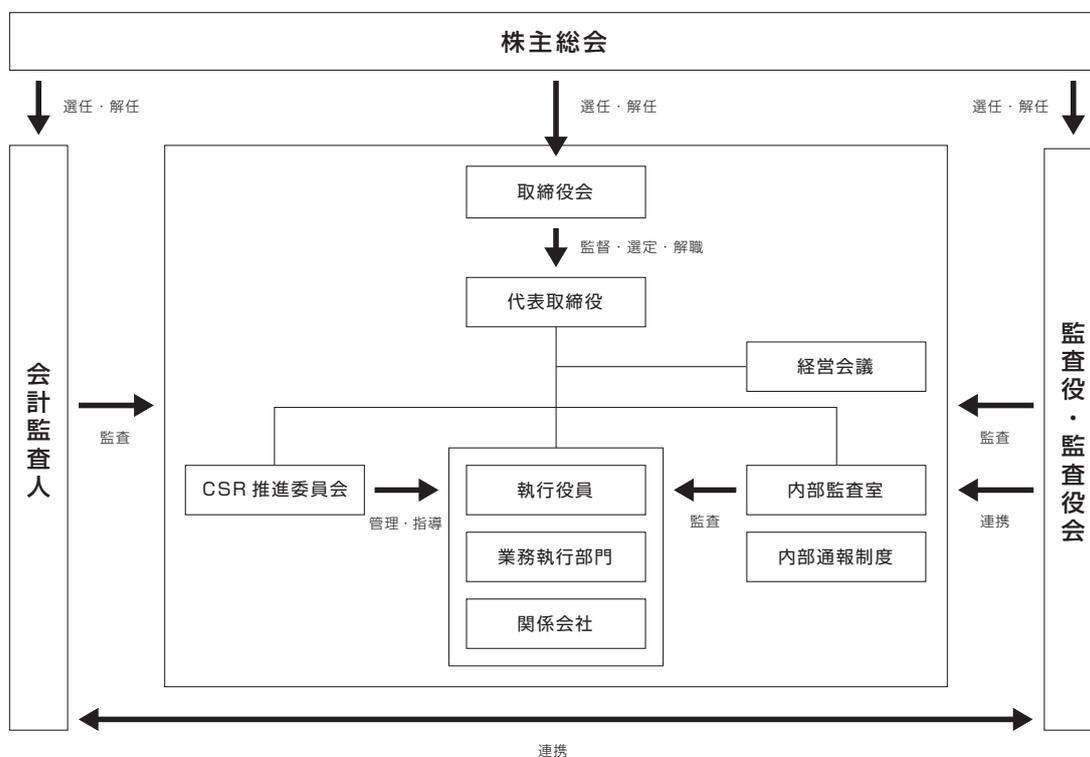
経営の透明性を高めるために

ゴールドウイングループは、公正かつ効率的な企業経営の実現と、激変する経営環境へのスピーディな対応を目的として、コーポレート・ガバナンスの充実を、経営の最優先課題としております。

当社では、取締役の職務責任を明確にするために、その任期を1年と定めています。取締役会は、原則として月1回の頻度で開催されますが、必要に応じて不定期でも開催されます。そこでは法令で定められた事項および重要事項の決定を行うとともに、業務の執行状況を監督し、その進捗報告が行われます。当社は執行役員制度を導入しており、取締役会が任命する執行役員は、各々の領域で委譲された権限のもと、取締役会が決定する経営戦略のもとで業務執行を行います。取締役と常勤監査役、執行役員で構成される経営会議は、事業執行に関する重要事項などを審議決定するために、原則として月1回開催されます。

監査役会は4名で構成されており、そのうち3名は社外監査役です。監査役は取締役会で意見を述べ、取締役の業務執行状況の監督を行うことによって、健全な経営と社会的信用の向上に努めます。内部監査を担当する内部監査室は、他の業務執行組織から独立しています。その客観的な立場より、法令および社内規程の遵守状況の確認を行うとともに、業務と経営効率の改善／向上、内部統制システムの運用状況のチェックを行い、その結果を代表取締役、業務執行取締役および常勤社内監査役に報告します。

当社は会計監査人に新日本有限責任監査法人を選任しています。会計監査人に正しい経営／財務情報を提供し、公正普遍的立場から監査が実施される環境を整備しております。



内部統制システム

適正な業務を保証するための体制

当社は「人々の暮らしをもっと楽しく、健康的に。ゴールドウインは、スポーツフルなライフスタイルを創造し、提供していきます」という企業理念、経営方針および行動規範に示される経営戦略ミッションをゴールドウイングループ全役職員によって具現化するために、適切な組織の構築、規程・ルール の制定、情報の伝達および業務執行のモニタリングを行なう体制として内部統制システムを整備・維持しております。また内部統制システムは適宜見直し、改善を行ない、適法かつ効率的に業務を執行する体制の確立をはかっております。

また、2008年4月より適用された「金融商品取引法」による内部統制報告制度に対応するために「ゴールドウイン財務報告基本方針」も制定。財務報告に関する内部統制を強化する体制を整備しました。

内部統制システムの基本方針

適正な業務を保証するための体制

取締役の職務の執行が、法令および定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定事項は以下の通りです。

1. 取締役の職務の執行が、法令および定款に適合することを確保するための体制について（会社法第362条第4項第6号）
コンプライアンスの徹底とモニタリング体制を整備し、取締役の職務の執行が法令などに適合することを確保します。また当社の取締役は、あらゆる反社会的勢力とは一切関係を持ちません。

2. 使用人の職務の執行が、法令および定款に適合することを確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項第4号）
コンプライアンスを徹底し、モニタリングが行える体制を整備し、使用人の職務の執行が法令などに適合することを確保します。また当社の使用人は、あらゆる反社会的勢力とは一切関係を持ちません。

3. 取締役の職務の執行に関する情報の保存、および管理に関する体制（会社法施行規則第100条第1項第1号）
取締役の業務執行に関わる情報は、法令および社内規程に従い、適切に保存／管理します。

4. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制（会社法施行規則第100条第1項第2号）
グループ全体のリスクを統合的に管理し、損失の危険の発生を未然に防止します。また万一損失の危険が発生した場合でも、万全に対応し損失の極小化をはかります。

5. 取締役の職務の執行を、効率的に行うための体制（会社法施行規則第100条第1項第3号）

グループの企業理念を定め、グループの経営計画を明確化し、適切な経営管理を行うことで取締役の職務執行の効率性を確保します。

6. 会社ならびにその親会社、および子会社からなる企業集団における、業務の適正を確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項第5号）

グループの企業理念と経営方針を各社に浸透させます。またコンプライアンスを徹底し、業務の適正化をはかります。

7. 監査役が、その職務を補助すべき使用人をおくことを求めた場合における、当該使用人に関する事項（会社法施行規則第100条第3項第1号）

監査役が職務の実効性を高め、かつ円滑な監査業務を遂行するために、使用人をおくことを求めた場合、専任かつ職務を遂行するに足る十分な経験と知見を有する使用人を任命します。

8. 補助使用人の、取締役からの独立性に関する事項（会社法施行規則第100条第3項第2号）

監査役付の使用人の独立性を確保するために、監査役付の使用人の任命や異動など、人事に関わる事項の決定は、監査役会の事前同意の上で実行します。

9. 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制（会社法施行規則第100条第3項第3号）

取締役および使用人が監査役に対して適切に報告する機会と体制を確保します。

10. その他監査役 の監査が実効的に行われることを確保するための体制（会社法施行規則第100条第3項第4号）

毎年策定する監査計画に従い、監査役が実効性のある監査を実施できる体制を整えます

「コンプライアンス教育」を継続的に実施

社員の倫理観を向上する

ゴールドウインは2008年度に「企業行動規範」(下段参照)と「社員行動基準」を改定しました。そこで社員がこれらへの理解を深めることを目的とした研修を実施。企業行動規範／社員行動基準のガイドブックの配布と並び、法令や会社の規程を遵守し倫理的に行動することを約束する「誓約書」も配布され、2009年4月、全役員および全従業員がこれに署名しました。研修にはひとりひとりの社員が高い意識をもって臨めるよう、問題演習を採り入れるなどの工夫がされています。

これら社員の倫理観を高めるコンプライアンス教育は、グループ全社を対象に継続的に実施されています。2009年度は、新入社員をはじめ管理職から一般従業員、パート社員まで階層別／地域別に、延べ18回開催されました。企業は経済面だけで評価されるものではありません。企業が社会と共存していくためには、法令を遵守し、高い倫理観を備えている必要があります。それこそが企業の社会的責任です。

企業行動規範

1. 法令・社会規範を遵守し、フェアプレーの精神で健全な企業活動を行います。

2. 株主・投資家、顧客、取引先等への企業情報を積極的かつ公正に開示し、経営の透明性の向上に努めます。

3. 社会的に有用な製品・サービスを安全性や個人情報・顧客情報に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得します。

4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。

5. 企業活動を通じてスポーツ文化の発展に寄与し、積極的に社会貢献活動に取り組みます。

6. 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行います。

7. 経営トップは本行動規範の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底をはかります。

8. 企業倫理に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決に当たる姿勢を社内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行います。



「こんなことをしても大丈夫？」と問題を察知する「気づきの感性」を磨くことが研修の目的。研修では講師による説明、コンプライアンスビデオの視聴が行われ、最後に演習問題に取り組みました

9. 環境問題の取組は人類共通の課題であり、企業の存続と活動に必須の要件であることを認識し、地球環境の保全と資源の有効利用、環境保全活動を促進します。

10. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決します。

[WEB] 社員行動基準

<http://www.goldwin.co.jp/corp/csr/governance.html>
#standards

「トップアスリートとともにある」ものづくり

はじめりは津沢メリヤス製造所時代のソックス

ゴールドウインの前身は、富山県小矢部市津沢の靴下工場です。それが全国区へと飛躍を遂げたのは1960年代初頭のこと。きっかけは女子バレーボール日本代表「東洋の魔女」に、身体にフィットする丈夫なユニフォーム、回転レシーブをしてもダメージを最小限に抑えられるサポーターなどを提供したことにはじまります。当社の社員は選手たちのもとに通い詰め、ウエアは日々改良されていきました。

当社の品質を聞きつけた人たちからのウエアの注文は以後増え続けます。体操選手やレスリング選手からもウエアの依頼をされました。ここでも、選手から次から次に投げかけられる改良点に挑むことで技術を磨き、ついにはオリンピック選手のユニフォームを手がけることになりました。

東京オリンピックの前年となる1963年、当社がユニフォームを提供した日本選手にはオリンピックでメダルを獲ってほしいとの思いを込めて社名を「ゴールドウイン」に変更。日本選手はそのオリンピックで12個のメダルを獲得します。現在も、トップアスリートとともにある最先端のものづくりを実践し続けています。

「トップの技術とともにある」ものづくり

日本ではじめて立体裁断の技術を導入

1970年、ゴールドウインはフランスのスキーウエアメーカー「フザルプ」との技術提携を果たします。当時、日本には身体にフィットする「立体的な裁断」は入ってきておらず、オリンピック選手といえども雨合羽のようなスキーウエアを着用していました。一方、ヨーロッパ選手がインスブルック冬季オリンピックで身につけていたフザルプのウエアは、日本選手のものとはまったく異なり、立体裁断を採用したものでした。立体裁断とは身体の凹凸に合わせて立体的に型紙を作る技術で、身体に対する抵抗感や圧迫感が少ないのが特徴です。

その技術を日本市場に入れたいと思い、フランスに向かいます。そしてフザルプの幹部に会えるまで熱意を伝え続けること5日間。晴れて技術提携へとこぎ着けました。日本で初めて立体裁断を採用した当社のスキーウエアは、アルペンスキーの名選手インゲマル・ステンマルクにも採用されました。

以後、当社は自社ブランドを充実させる一方で、著名な海外ブランドや技術を積極的に日本で展開していくことにも着手。現在では「チャンピオン」「ザ・ノース・フェイス」「エレッセ」「スピード」をはじめ15の海外ブランドとライセンス契約を結んでいます。

「匠の技とともにある」ものづくり

「現代の名工」に続き「黄授褒章」を受賞

ゴールドウインテクニカルセンター技術主席の沼田喜四司が「現代の名工」の称号に続き、2009年の春に「黄授褒章」を受賞しました。沼田は衣類の型紙を作るパタンナーの中でも、立体裁断のスペシャリスト。仏フザルプ社が世界に先駆け開発したこの技術を、昭和40年代半ばまでに商品に採用したのは日本ではゴールドウインが最初です。それに大きく貢献したのが沼田で、当社では「技術開発の父」と呼ばれています。

この裁断技術を習得するにあたり、フザルプ社とは技術者レベルでの交流はありませんでしたが、フザルプ社の商品を分解するほか、沼田は竹ひごに和紙を張って作るあんどんを参考にしました。そして日本人の身体に合わせた立体裁断をイメージ。沼田は当時のことを次のように回想します。「身体のラインに合わせて竹ひごを組むことを想像すると、頭の中に型紙がイメージできた」

沼田の代表的な仕事には、1972年の札幌五輪での日本代表選手のスキーウエア、75歳でエベレスト登頂を果たしたプロスキーヤー三浦雄一郎氏のウエア、海洋冒険家の白石康次郎氏の単独世界一周ヨットレースでのウエアがあります。常に極限状態にあるアスリートを支えてきた高い技術の応用範囲はますます広がり、「近未来宇宙暮らしユニット」にも参画。宇宙船内日常服の開発の一翼を担いました。



単独世界一周ヨットレース「5 OCEANS」に日本人として初挑戦した海洋冒険家、白石康次郎氏のウエア。「5 OCEANS」では、海上でマイナス10度から熱帯の50度までの気温差にさらされる。沼田は1分以内に着脱できるセーリングウエアを開発



宇宙船内日常服。微小重力空間では人間は自然と少しかがんだ姿勢をとることに着目。臀部から太ももにかけてあらかじめ曲げておく宇宙仕様のカッティングで身体への負担を軽減した

「シーンの垣根を越える」ものづくり

日常シーンに還元される先端技術

宇宙船内日常服（ページ上段参照）の開発と連携して生み出された「マキシフレッシュプラス」は、加齢臭の臭気（ノネナール）と汗の臭気成分（アンモニア）をカットする機能素材です。国際宇宙ステーションに長期滞在する宇宙飛行士は、頻繁に着替えることができません。マキシフレッシュプラスはそこでのニオイをカットするために開発されました。現在、MXP、ザ・ノース・フェイス、ヘリーハンセン、エレッセ、カンタベリー・オブ・ニュージーランドの5ブランドが、この技術を採用したアンダーウエアをリリースしています。これは宇宙という極限空間で生まれた先端テクノロジーを、日常シーンに還元した例のひとつです。



マキシフレッシュプラス
着るだけで雑菌の発生や繁殖をおさえ、ニオイの元となる菌の動きを抑制する機能素材。「マキシフレッシュプラス」を使用した下着



C3fit
着ているだけで身体のコンディションを改善できる「C3fit」

同じく、一般医療機器の基準で作られたタイツ類を、スポーツシーンや日常シーンに採り入れた新ブランドが「C3fit」です。「運動機能を着るウエア」というコンセプトのもと開発されたC3fitは、着圧が身体機能と運動機能に働きかけ、身体を良いコンディションへと導き、身体の動きをサポートします。特にタイツなど下半身に着用されるC3fitは効果が高く、足首から大腿部にかけて段階的に着圧をゆるめることで静脈の環流を促進。また筋肉の余分な振動を抑制することで無駄なエネルギーの発生を抑え運動効率を高めます。

過去事例を今後に活かす品質体制

お客様からの声を活かす品質保証部

カスタマーサービスセンターに寄せられるお客様からのご意見およびクレームは、今後の製品開発に活かすべき貴重なメッセージです。すべてのメッセージは、各事業部や各ブランドではなく「品質保証部」が一括で集約し、調査回答を行います。品質保証部はカスタマーサービスセンター、品質保証グループ、品質管理グループで構成され、営業や企画、開発部門からは独立した部門です。ここでは関係部門が連携をはかりながら、お客様からの声に的確に答えること、お客様の声を品質向上に活かすことに集中しています。得られた重要情報は、原因の究明／再発防止策を検討した後に、関係各部門にフィードバックされます。

リコール判断の権限も、各ブランドの責任者ではなく、全ブランドの品質を横断的に管理している品質保証部長に与えられています。またリコール情報については、ホームページ上の「お客様へ重要なお知らせ」で開示されています。

品質会議

お客様から直接、または小売店様を通じて報告された商品の不具合に関する情報は、マニュアルに従って調査され「品質会議」で検討されます。その結果、品質や安全性に問題が見つかった場合には、迅速に対応がなされます。定期的に行われる品質会議では、クレームや不良品に関する情報の共有をはかり、商品の品質／安全性を高め、お客様満足度の向上に活かされます。

「品質不良製品および事故事例展」を開催

2009年10月に「品質不良製品および事故事例展」が、東京本社地区と富山工場地区で、全従業員を対象として各2日間開催されました。これは素材開発からお客様の使用に至るまでの全工程において、今後の製品開発に生かすべき注意点を呼びかける試みです。会場には100点以上の事故事例品のパネルが用意されました。これも事故事例を積極的に製品開発に生かしていくゴールドウインの取り組みのひとつです。



本格的な修理体制

商品の長期使用を支える

ゴールドウインは、ザ・ノース・フェイスの商品の取り扱いをはじめた30年前に本格的な「WARRANTY（保証）」制度を設けました。その制度は「素材や構造上の欠陥が原因となったものは、無償で修理する」「その他の場合は、適正な価格で修理する」を徹底したものです。それを支える修理部門も30年前に設置されました。現在この制度は、ザ・ノース・フェイスをはじめとしたアウトドアブランドの製品に限らず、モーターサイクルウエア、スキーウエアなども対象としております。修理に持ち込まれる商品は多岐に渡りますが、最も多いのはレインウエアやダウンジャケットの破れ修理。なかには20年前に販売された製品も見られます。



近年、環境問題への関心の高まりや景気後退による買い控えもあり、商品の使用期間が長期化する傾向にあります。それを受けて修理依頼も急増中。2004年の時点では年間約3,500件程度だった依頼は、2009年には8,500件と約2.5倍に増えました。ゴールドウインでは「GREEN IS GOOD」(P19参照)の「GREEN MIND」にのっとり、商品設計の段階から、長期使用に耐える商品開発を心がけています。



生産委託先の生産品質を改善

工場の管理レベルを向上

多様化するお客様からの要望に応えるために、商品の短サイクル化、小ロット化をはじめとする、難易度の高い商品生産が近年増えています。これらの状況を踏まえ、中国、ベトナム、タイといった、全体の80%をしめるゴールドウインの生産委託先で、年2回「海外品質会議」を開催しています。

生産委託先ごとに、縫製不良や規格違いといった問題点をすべてデータにもとづき分析、その改善に向けた詳細な協議を行います。これにより製品品質の底上げと、工場の管理レベルの向上をはかり、品質不良の削減を目指します。この会議により、生産委託先ではゴールドウインの品質基準を遵守し、製品の品質向上を目指す意識があらためて高まっています。

会議には、ゴールドウインの品質保証部、調達管理部、商品部から各々数名が参加。生産委託先からの参加者は代表者、工場長、現場担当者など。会議の結果は、ブランド事業部の会議で報告され、調達部門間で情報が共有されます。

CSR 調達に着手

サプライヤーによる行動規範の遵守

ゴールドウイングループは、公正なルールにのっとって活動することを、従業員行動規範の基本方針に掲げています。同様に資材調達先、生産委託先といったサプライチェーンにも、基本方針である「法令等の遵守」「品質の保証」「環境への取り組み」「人権／人格／個性の尊重」に賛同していただくことを前提として「サプライヤー行動規範」を定めました。

近年、当社ではお客様の多様なニーズやライフスタイルに応えるために、サプライチェーンのグローバル化を進めています。そこでのすべての取り引きに際しては、この基本方針を遵守していただく必要があるという認識に当社は立っています。

それにとまないサプライチェーンのCSR推進のための基本施策である「CSR調達」の調査を2010年から開始。調査段階においては、サプライチェーンとのスムーズなコミュニケーションを重視し、ゴールドウインの調達担当部門、品質保証部門、CSR推進部門が、密に連携をはかりながら調査・導入を進めました。

業務で培った接客術を披露「接客ロールプレイングコンテスト」開催

ゴールドウインらしいおもてなしを審査

販売員の接客品質の向上を目的とした「接客ロールプレイングコンテスト」が、2009年10月7日開催されました。このイベントには、自主管理店舗260店より店舗代表者123名が参加。販売スタッフの中から各事業部より推薦／選抜された8名がコンテストに出場し、日々の業務で培った接客術を披露しました。

コンテストのテーマは「ゴールドウインらしいおもてなし」。以下7項目と「もう一度この人に接客してもらいたい」と思わせられるかが審査のポイントです。

- ① 好感度：販売スタッフとしての基本マナー、表情、身だしなみ
- ② あいさつ：タイミング良いお声がけ、お客様に合わせた話題の提供
- ③ 言葉づかい：正しい敬語や接客用語、ていねいな言葉づかい
- ④ 商品情報：専門的かつ正確な情報の提供。正しい商品価値の伝達
- ⑤ 会話力：お客様への話し方、お客様が話しやすい聞き方
- ⑥ ニーズチェック：お客様のニーズの把握と、疑問の解消
- ⑦ 提案力：説得力があり、確実に販売につなげるスキルの有無

各項目は5点満点で合計35点。社長、担当役員を含む全参加者による審査が行われ、最優秀賞1名のほか各賞が贈られました。



最優秀賞を受賞したのは、エレッセ横浜店の女性社員。入社4年目



優秀賞2名のほかセールストーク賞、アプローチ賞、ニーズチェック賞、コミュニケーション賞、コーディネート賞が、コンテスト参加者に贈られた

従業員とともに

健康的に働ける職場環境

病気の予防と、早期発見を推進

健康を害することなく、生き生きと働ける職場を提供することは、企業にとって重要な責任です。ゴールドウインは、社員が心身ともに健康な状態を維持できるよう、健康管理体制の充実、病気の予防／早期発見に力を入れています。

法令に基づく定期健康診断は、完全受健を徹底しています。健康診断後のフォローも行き、長時間勤務者には重点的に指導します。定期健康診断で所見があった社員には、法令にもとづき特定検診機関と協力して、生活習慣を見直す指導を行ってきました。今年度、富山地区に関しては、富山県厚生センターの協力を得て、骨密度や血管年齢、脳年齢などの測定も実施。あわせて健康を維持するための食事レシピの紹介も行われました。従業員の約50パーセントがこれを受診するにいたりました。

その他、運動会やスポーツ親善大会など、社員の運動不足を解消する催しにも積極的です。プログラム内には各種健康診断を取り入れ、健康への意識付けを行います。またウォーキングキャンペーンの開催や、インフルエンザワクチンの助成も行っております。



定期健康診断で所見があった社員は、法令に基づき生活習慣を見直すため指導を行います。メタボリック症候群のケアにも積極的に取り組んでいます

時間外労働の削減

過重労働による健康障害を防ぐために「ノー残業ディ」を設置しています。あわせて「部署別残業データ」の社内公表により、残業削減への意識を高めてきました。また、残業の抑制を目的に、社内放送による帰宅促進案内や強制消灯も実施。2009年度は、1カ月あたりの時間外勤務時間が80時間を超えた場合、産業医が簡易健康チェックを行うことで、病気の予防と早期発見に努めました。

積極的なメンタルヘルスケア教育

社員が心の健康問題を抱えることは、その社員本人のみならず、周囲にいる社員や家族にも大きな影響を与えます。企業のパフォーマンスにも少なからぬ影響を及ぼします。当社は、社員の心の健康を守るために、会社組織として「メンタルヘルス教育」を推進。また健康不安や悩みごとを相談できる「社内外相談窓口」を設置することで、多角的に社員のメンタルヘルスをケアしています。

社内分煙と禁煙支援

ゴールドウインは、社内分煙を徹底することで、健全な労働環境の提供を行ってきました。これは生産性向上にもつながる重要な取り組みです。随時メンテナンスを行うことで、環境の維持／向上に努めています。また「世界禁煙ディ」と同じ2010年5月31日には、グループ全社禁煙を実施。これを機会に全面禁煙に挑戦する社員を増やし、本人とご家族の健康を増進させることが狙いです。禁煙に関する支援は、健康保険組合と協力しながら、各種実施しています。

スポーツを通じた社員同士の交流

恒例秋の「運動会」

毎年秋に、コミュニケーション推進の一環として開催されるイベントが「運動会」です。この日はスポーツを通じて、普段接することのない部門間での交流が活発に行われます。青空のもとで汗を流すことは運動不足の解消への第一歩にもなりますが、社員自らが自社製品を身につけスポーツに取り組むことで、豊かなスポーツライフを提案する際の土台にすることも狙いのひとつです。社員家族のみならずにもご参加いただくことで、社員の元気な姿や、社内の和気あいあいとした雰囲気を感じていただく意義もあります。

2009年度は、富山地区と東京地区の2カ所で社長を含む半数以上の社員が参加。東京地区では社員320人、その家族80名の計400名が、会場であるとしまえんのグラウンドに集合しました。なお運動会は土曜日に開催され、出勤扱いになります。

多くのメリットを運ぶ「クラブ活動」

社内には、モーターサイクル部、アウトドア部、野球部、フットサル部、自転車部をはじめ12のクラブ(東京地区)があります。これだけ多くのクラブがあるのは、スポーツアパレル企業ならではのクラブ活動には、社員の健康づくりと社員コミュニケーションの推進という意義もありますが、仕事に対するモチベーション向上に欠かせないメンタルストレスの解消にも役立っています。またスポーツを通じて、スポーツ関連商品をモニタリングできることも、意義のひとつに数えられます。

クラブ活動の延長として催される「親善スポーツ大会」も、普段仕事では関わることのない社員同士が交流を深められる機会です。これは全国にいる社員が、交流戦を通じてグループ内の相互コミュニケーションの充実をはかる取り組みです。



新入社員による選手宣誓によって幕を開けた「運動会」



「運動会」は、年代別徒競走、家族玉入れ、むかでリレー、走る〇×クイズ、家族パン食い競争、おとなの障害物競走、綱引き、大玉ころがし、ガチンコリレーなどの種目で彩られた



野球部は渋谷区軟式野球連盟2部所属。スポーツ工業組合軟式野球大会 工業の部で優勝8回の実績があります



「親善スポーツ大会」は、富山に総勢100名が集まり、東京、大阪、富山のクラブ対抗戦(野球、サッカー、ゴルフ)の他、テニス部、モーターサイクル部が参加して実施された

健康促進を目的とした「クッキングセミナー」

正しい食生活をおくるために

富山県砺波厚生センター支援のもと、ゴールドウイングループの社員を対象に実施された「クッキングセミナー」。これは富山県が2009年度から、県民の健康を推進する「社員健やか元気食堂推進事業」の一環として行われました。当日は砺波厚生センター栄養士1名と富山県栄養士会より2名の栄養士を講師に招き、ミニ講義やゲームを通じて、正しい食生活に関する情報がレクチャーされました。また健康に配慮したメニューを実際に調理。参加者全員による試食でセミナーは締めくくられました。

当セミナーの実施背景には、働く世代の健康不安が年々高まりを見せていること、メタボリックシンドロームおよびその予備群が増えていることがあります。そうした状況を踏まえ、セミナーでは社員を健康な食生活へと導き、そこで学んだことを家庭での食生活に役立ててもらうことで、正しい食事にはじまる健康づくりに意識を向けてもらいます。



セミナー会場は、小矢部市総合保健福祉センターの調理実習室。親子づれを含む約40名が参加。材料代の一部となる参加費は大人500円、子ども300円



当日のメニューは「とびっきりミートローフ」「きのこのコーングラタン」「パンペキンズープ」「クリスマスケーキ」。いずれも健康に配慮したメニュー



セミナーは参加者全員による試食で締めくくられた

環境基本理念

私たちは、自然と共存し調和ある繁栄を実現する崇高な使命が与えられています。

ゴールドウイングループは、スポーツウエアをはじめ各種機能ウエアの企画、製造、販売を通じて環境負荷の低減を目指すとともに、健康総合企業として地球環境にやさしい商品の提供により環境への有益な影響を増進するなど、地球環境保護への姿勢を以下の環境方針に定めます。

環境方針

1. 事業活動又は保有する設備が適用を受ける環境に関する法律、規則及びその他要求事項を遵守するとともに、可能な限り自主基準を設定し、環境の汚染予防と保全に努めます。
2. 事業活動が環境に与える有害な影響を認識し、全社員参加によりその影響を低減し、緑の地球を守ります。
3. 環境影響を改善するための目的・目標の設定、及び見直しを実施し、継続的な改善活動を実施します。
4. エネルギー及び資源の使用量・排出量を十分に認識し、限りある地球資源の有効利用、産業廃棄物の削減を実施します。
5. 持てる経営資源を結集して独自の技術を開発し、人の健康と環境にやさしい商品の開発を推進します。
6. 自然と生き物が健康体でありつづけるために、自然環境に調和し、地域社会と共存できる企業であり続けます。

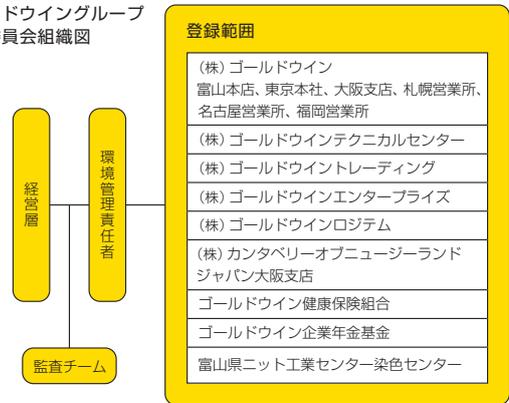
環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証取得

スポーツアパレル業界では初の取得

ゴールドウインの富山工場は、スポーツアパレル業界では初めてISO9001(1998年10月ハイテック事業部)とISO14001(1999年11月)の認証を取得しました。

また2006年2月には、環境保全と環境配慮商品の開発に着手したことに加え、資源の無駄づかいを減らしながら事業効率を上げるために、ゴールドウインの全事業所と染色センターでも、ISO14001の認証を取得。行動指針のひとつである「きれいな経営」により、経済活動を推進すると同時に、環境に配慮した商品、活動、サービスでも社会に貢献しています。

ゴールドウイングループ
環境委員会組織図



ゴールドウイングループの環境マネジメントシステム推進体制
環境保全活動に関する重要な方針、政策、課題に関して審議する場が環境委員会です

「エコテックス100規格」の認証を取得

グループ会社の品質安全を保障

ゴールドウインのグループ会社、富山県ニット工業センターの染色センターは、2002年にエコテックス100規格の認証を取得しました。エコテックス規格100は、有害物質の影響をなくすことを目的とし、繊維の全加工段階における原料、半製品、最終製品に適用される、世界的に統一された試験・認証システムです。

直接肌に触れる素材に染色加工を行っている当染色センターでは、本認証を取得することで、高い安全性と透明性、素材品質の信頼性を確保しました。なかでも肌着・下着の安全性は、消費者からも求められていることのひとつ。エコテックス100の取得は、消費者とゴールドウイン双方にとって大きなプラスになります。また当染色センターは、環境の維持・改善を推進するため、2006年の2月に、ISO14001の認証も取得しました。

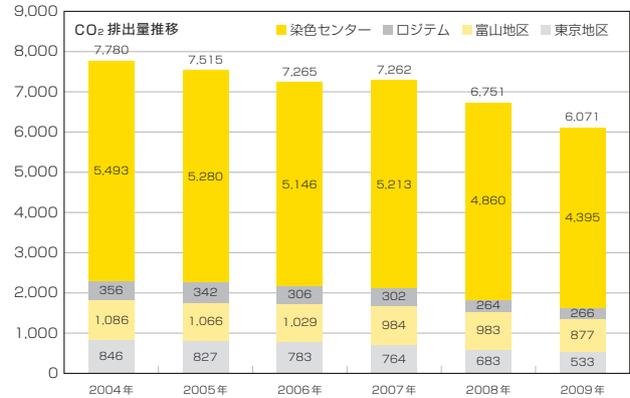


エコテックス認証マーク
繊維製品の安全性を保障するエコテックスの認証マーク。展示の際や、カタログ上で使用されている(製品上ではマーク使用は行われていない)

2009年度の重点取組実績

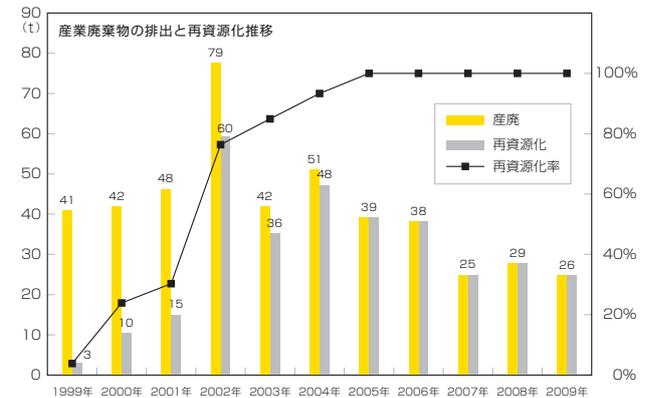
地球温暖化対策

環境方針「地球の汚染予防と保全活動」にもとづき、電力、ガス、重油などの使用量を減らし、CO₂排出量の削減を推進しました。また返品ともなうCO₂排出を極力避けるために、返品率の低減活動を行っております。染色センターでは、ボイラーで使用する燃料を重油から環境負荷の少ないLPガスに切り替えました。



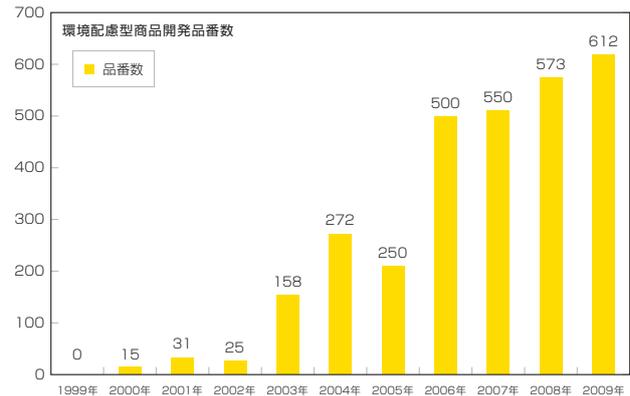
廃棄物の削減

環境方針「産業廃棄物の削減」にもとづき、富山工場で2005年ゼロエミッションを達成しました。ゼロエミッションとは、廃棄される産業廃棄物を再資源化し、最終埋め立て量ゼロを目指す活動です。染色センターでは、染色加工で発生するC反（再加工できず廃棄）の発生率の低減にも取り組んでいます。



環境配慮型商品の推進

環境方針「人の健康と環境にやさしい商品の開発」にもとづき、「GREEN IS GOOD」のコンセプトを掲げ、環境配慮型商品の開発に努めました（次ページ参照）。また昨年からは、商品を回収した後に原料化して、再度商品化する「循環型リサイクルシステム」を導入しました。



環境を考える製品開発コンセプト「GREEN IS GOOD」

GREEN IS GOODは、「くりかえし使う(GREEN CYCLE)」「選んで使う(GREEN MATERIAL)」「大切に使う(GREEN MIND)」の3つを軸としたプログラム。ゴールドウインはスポーツアパレルメーカーのポジションから、環境に配慮した製品の開発、環境への負荷を軽減する取り組みを、これらコンセプトのもとで展開しています。

GREEN CYCLE — くりかえし使う

使用後の製品を回収して、新たな製品として再生する循環型のリサイクルシステム。回収された製品は、石油から製造した場合と同レベルの高純度原料に再生されるため、限りある化石燃料を無駄にしません。すでに存在する製品から、このシステムにより新しい製品を生み出せます。これによりCO2排出量を大幅に削減できます。

GREEN MATERIAL — 選んでつかう

ポリエステルなどリサイクル可能な繊維や、ユーカリ、竹、ヘンプなど成長の早い植物を原料とした繊維、テンセルやモダールなど環境負荷の少ない天然素材、無農薬の畑で育てられたオーガニックコットンなどを採用。これら素材のことをGREEN MATERIALと呼んでいます。

GREEN MIND — 大切に使う

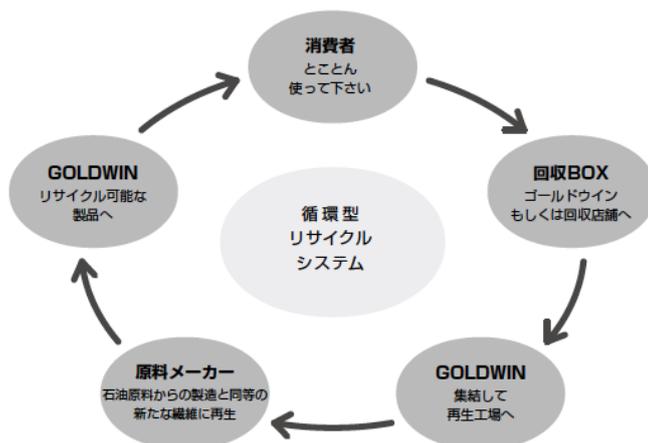
循環させるよりも大事なことは、ひとつの商品をできるだけ長く使っていただくこと。頻繁に循環させることを防ぐためにも、お客様に愛用してもらえる製品づくりにつとめます。



循環型リサイクルシステム対応商品
リサイクル可能なナイロン繊維を使用したザ・ノース・フェイスの「撥水コンパクトジャケット」



循環型リサイクルシステム対応商品
吸水即乾、UVカットのメッシュ素材を使用したエレッセの機能Tシャツ



循環型リサイクルシステム

回収したポリエステルやナイロン繊維製品を、品質を劣化させることなく、何度でも新たな製品として再生可能。最終的にはゴミとなるリサイクルとは異なり、永久的に資源を循環させられます

商品購入を通じて植樹「ワンプロダクトワンツリー」実施

通算1,700本の植樹を達成

ザ・ノース・フェイスは、2008年に引き続き、2009年も「ワンプロダクトワンツリー」キャンペーンを実施しました。当キャンペーンは、お客様がエコフレンドリー商品を1点購入するごとに、社会貢献活動団体CSPを通じて1本の木を植ええられるもの。2009年には対象商品を19品番用意し、1,500本の植樹を達成しました。2010年度は、前年以上の植樹を目指します。

エコフレンドリー商品とは、地球環境への負荷を軽減した商品群のこと。リサイクル素材を使用することで、製造段階で環境負荷を軽減した商品群と、循環型リサイクルシステム(P19参照)に対応することで環境負荷を軽減したものがあります。温暖化の抑制、生物多様性の回復/保全に役立つ植樹にご協力くださったお客様には、お礼として記念カンバッジ(2個1組)とフライヤーがプレゼントされます。



エコフレンドリー商品一例

エコをテーマにした国内唯一のトーナメントに特別協賛

次世代トーナメントのあり方を提案

エレッセは、ITF(国際テニス連盟)、JTA(財団法人日本テニス協会)公認、賞金総額男女各10,000ドルのオープントーナメント「エレッセ甲府国際オープンテニス2010」に特別協賛しました。当トーナメントは、大会スローガンに「エコなトーナメント」を掲げた国内唯一の大会。2010年3月20日から4月4日の開催時には、エコを推進するさまざまな取り組みが見られました。

スタッフウエアには循環型リサイクルウェア(P19参照)を採用し、ナイター設備などで消費される電力に配慮するなど、エコを意識した取り組みを実践。小学校の机やイスの足に使用済みテニスボールを取りつけ騒音を緩和する試み、試合球を開封する際に出るアルミプルタブを回収し、車イスを購入する運動にも貢献しました。またリユース素材の紙皿をはじめ、大会運営に必要なすべての紙資材にはリサイクル紙を採用。ほかにも会場近辺への足として、甲府市リサイクルセンターから購入したリサイクル自転車を使用するなど、次世代のテニストーナメントのあり方を提案しています。



循環型リサイクルウェアを着た会場スタッフたち



ゴミは100パーセント分別
再利用可能な資源は有効活用。分別したペットボトルのキャップは、NPO法人エコキャップ推進協会を通じて、世界の子供たちにワクチンを届けることに活用されました

次世代のスキーヤーを育成する「ナスターレース」

20年以上に渡りナスターレースを支援

ゴールドウインは、20年以上に渡り「ナスターレース協会」を支援してきました。「ナスターレース(NASTAR RACE)」とは「National Standard Race」の略で、全国標準のレースのこと。標準(基準)となるナショナルペースセッターと比較して、自分のスキーレベルを数値(NST-P)で計れるのが特徴です。通常のレースでは、異なる会場で得られたタイム同士を比較しても優越はつけられません。しかし、ナスターレースでは「基準となるタイム」をコースやレース毎に設定して、その基準タイムからポイント(NST-P)を算出します。そのためナスターシステムが導入されている大会同士であれば、レースポイントで優越の比較が可能です。日本国内ではナスターレースポイントが算出される公認大会が、年60レース以上開催されています。

ナスターレース協会は、チルドレンレーサーや一般スキーヤーにナスターレースの面白さを知ってもらうとともに、レベルアップの目標にいただき、スキーを生涯スポーツとしてもらいたいと考えています。

ウィスラーカップへ上位選手を派遣

当社は11年前より、小中学生を対象とした「ゴールドウインナスターレースチルドレン/キッズジャパンカップ」を開催し、上位入賞者10名を北米最大のジュニアスキーレース「ウィスラーカップ」へ派遣してきました。2010年4月7日から13日にかけて開催された本大会には、ヨーロッパの「トッパリーノトロフィー」の上位者が招待されるなど、世界24カ国から390名が参加。日本の代表選手たちは、並みいる強豪を抑え優勝を獲得するなど、優れた結果を残しました。本大会で選手たちは、当社が提供したワンピースとチームウェアを着用しました。

小学生以下を対象とした検定を開始

小学生以下を対象に、スキーの裾野を広げるためのプログラム「ナスターレース キッズ チャレンジ」を2009年よりスタート。本プログラムは初めてのスキーをより楽しく安全に、雪遊びの延長のように楽しめるもの。誰もが気軽にポールをくぐり抜けるアルペンスキーにトライする試みです。ここでは、ナスターレース キッズ チャレンジの検定も用意。2009年度は、小学生以下を含むひびっこ198名(うち園児以下54名)がチャレンジして、157名が認定証を受け取りました。

ナスターレース協会：<http://www.nastar-r.com/>



第11回 ゴールドウインナスターレースチルドレン/キッズジャパンカップ
11回目を迎える本大会では、GS種目(大回転)とコンビ種目を各年齢カテゴリー毎に実施。KIDS部門100名、CHILDREN部門250名の定員350名のほか、招待選手も含め373名がエントリー



ウィスラーカップ派遣選手
写真左はK1(チルドレン1)部門女子優勝の荒井美桜さん、右がK1(チルドレン1)部門女子準優勝の片桐成海さん



ナスターレース キッズ チャレンジ検定
本検定には二種類のカテゴリー(BASIC-1、2)を用意。「BASIC-1」は、自力による滑り出し、ゴールまでのスキーコントロールと自力停止の能力を判定。コースは50~100m、斜度4~10度で3分以内にゲートを通過する。「BASIC-2」は、滑降方向のターンによるコントロール、ゲートを見落とさない視界の広さ、コース制覇の意欲と理解力を判定。コースは70~150m、斜度4~10度、3分以内にゲートを通過する

次世代にスポーツの楽しさを伝える「MIPスポーツ・プロジェクト」

子どもたちの健全な育成をサポート

ゴールドウインは、スポーツを通じて「青少年の健全な育成」を目指すNPO法人「MIPスポーツ・プロジェクト」の「スポーツゲームズ」を支援しています。イベントスタッフと参加者全員のユニフォームの提供などを、2002年より継続してきました。

「MIPスポーツ・プロジェクト」はさまざまな分野で活躍してきたトップアスリートたちのセカンドキャリアを構築することで、新しいスポーツ産業を創造し社会に貢献している団体。現役引退後のアスリートが自らの経験を生かし、子どもたちに「スポーツの楽しさ」や「スポーツ文化の素晴らしさ」を伝えてきました。その主幹事業である「スポーツゲームズ」は、子どもたちに普段行っているスポーツだけではなく、未体験のスポーツの機会を与えます。2009年度には全国で21回、サッカーやバスケットボール、バレーボールなど様々なスポーツを体験する場を提供しました。子どもたちはこれら体験を通じて、新たなスポーツへの可能性を広げられます。

当社は、企業理念に「スポーツのある生活を通じて、心と身体の健康を提供する」と掲げています。そのため「スポーツを通じた子どもたちの健全な育成」には積極的です。近年、特に高校生や大学生を中心として、スポーツ人口が減少するのにもとない、子どもの身体能力は低下、クラブ活動も縮小傾向にあります。そうした状況に歯止めをかけるためにも、子どもたちにスポーツと触れあう機会を与える活動が欠かせません。また新たなスポーツ体験は、将来のスポーツライフをより豊かなものにする可能性も秘めています。

スポーツの楽しさと素晴らしさを知ってもらうこと、スポーツを通じて限界に挑戦し成長すること、競い合い助け合うことで友情を育むこと——スポーツは子どもたちの心身の成長に大きなプラスとなるはずで



上：子どもたちに未経験や普段あまりやっていないスポーツの機会を与えてくれる「スポーツゲームズ」。2009年度は、約8,000人の参加者を集めた
下：バスケットボールの基本をレクチャーしている風景。講師が、デモンストレーションをして見せると、ボールハンドリングの華麗さに子ども達は歓声を挙げていました

中学生の職場体験「14歳の挑戦」を支援

豊かな心や生きる力を育む活動

「14歳の挑戦」とは、1999年より続いている富山県内の中学2年生を対象とした職場体験学習のこと。5日間の体験学習を通じて、規範意識や社会性、豊かな心や生きる力を育む活動です。ここでは働く大人の姿に直に触れることで、自分を見つめ直す機会を持ち、他者とふれ合うことの喜びを学びます。

ゴールドウインは、1999年から毎年中学生を数名受け入れてきました。多い年は5名、2009年度は津沢中学校の1名に機会を提供しました。研修生は7月6日から7月10日にかけての5日間、ゴールドウインテクニカルセンター生産技術部門で型紙作りの補助、裁断、縫製をはじめとした一連の仕事を体験。参加学生からは次のようなコメントをいただきました。

「社会の厳しさや大変さを学ぶ良い機会になりました。特に縫製の作業では、一枚の服を完成させるまでに多くの工程があることを学べた上、服ができたときの達成感も味わうことができました」

同様の取り組みとして、高岡工芸高校2年生の数名を、毎年インターンシップに受け入れています。2009年度は7月8日から10日の3日間、ゴールドウインテクニカルセンター事業推進部にて実施されました。

「シャプラニール＝市民による海外協力の会」に協力

身近にあるものを捨てずに寄付

身近にあるものを捨てずに活かす特定非営利活動法人「シャプラニール＝市民による海外協力の会」（以下シャプラニール）。ゴールドウインは社内で購入した本、または当社広告が掲載された雑誌の中から不要となったものを回収して、シャプラニールに寄付しました。それら古本は寄付金に替えられ、バングラデシュやネパールの働く子どもたちの生活改善にあてられます。この支援活動は2010年度も継続されます。

シャプラニールは、不要になった本以外にも「書き損じハガキ」や「中古CD」といった、日常生活で不要になったものを海外協力で役立てる活動「ステナイ生活」を行っています。そのほかにも募金・寄付活動、フェアトレードの推進といった多様な海外協力の手段を提供。1972年に現在のシャプラニールの前身が結成されて以来、恵まれない環境に生きる子どもにさまざまなサポートを続けてきました。



ネパールでは、200円で働く子ども1人が8日間学校に通うことができる。200円は、書き損じはがき5枚、CD3枚に相当。シャプラニールは、古本だけでなくさまざまな不要になったもので海外協力を実践している

「ビーチクリーン／清掃ボランティア」による地域貢献

事業所周辺の清掃ボランティア

清掃ボランティアは、ゴールドウインが環境保全の一環として取り組んできた活動のひとつです。東京地区では2006年5月より、本社周辺（渋谷松涛地区）のボランティア清掃を開始。以後、年に数回のペースで継続してきた松涛地区での清掃活動は、2010年1月には10回目を数えるに至りました。10回目の実施時には80名のボランティアが参加。スタート当初は当社単独でのボランティアの予定でしたが、周辺への呼びかけにより地域企業3社が加わって、4社合同で活動を続けています。2008年2月には渋谷区長から感謝状も贈られました。

事業所周辺の清掃ボランティア活動は、東京地区のほかに富山地区、大阪支店でも実施しています。



ゴールドウイン東京本社のある渋谷区松涛地区での清掃ボランティアは2006年よりスタート

葉山大浜海岸のゴミを大掃除

2005年より「Helly Hansen Ocean (H2O) プロジェクト」の一環としてスタートしたビーチクリーンは、神奈川、神戸、富山、沖縄での開催に続き、2009年7月20日の葉山・大浜海岸で13回目を迎えました。このときはエイ出版が発行する雑誌「everblue」と、三洋電機と共同で開催。海岸でのゴミ拾いのほか、磯に生きる生物の観察、新型のデジタルカメラのサンプリングを兼ねたワークショップを実施しました。多くのファミリー連れの一般参加者が汗を流しました。

H2Oプロジェクト®は、水辺の環境保全活動を支援する目的で2005年に発足。環境保全や店頭での募金活動、環境に配慮した商品を通じて、地球保護のメッセージを発信しています。



2009年7月20日、葉山大浜海岸で13回目を迎えた「Helly Hansen Oceanプロジェクト」のビーチクリーン

サバニ帆漕レース開催前日にビーチクリーン

2009年6月28日に開催された「第10回サバニ帆漕レース」の前日には、会場となる古座間味浜でビーチクリーンを実施しました。レース出場者のほか一般参加者も含め200人が参加。参加者には記念品も用意されました。「サバニ帆漕レース」はヘリーハンセンが2007年より特別協賛してきたイベントです。サバニとは琉球列島の漁業関係者に使われてきた舟のことで、本イベントはその帆走技術を伝承することを目的としています。



古座間味浜のクリーンナップは「第10回サバニ帆漕レース」の前日となる2009年6月27日に開催

氷見市松田江海岸の継続的クリーンナップ

ゴールドウインの富山地区グループ会社は、2009年7月11日に氷見市松田江海岸で、一般参加者とともにビーチクリーンを実施しました。この活動は2006年より継続されてきたものです。2009年には、氷見市長と「市の環境を良くする会」の松原勝久氏から、日頃の取り組みに対して感謝状が授与されました。



氷見市松田江海岸のビーチクリーンは2006年より継続。一般参加者とともに清掃活動を行ってきた

会社情報

株式会社ゴールドウィン
GOLDWIN INC.

東京本社
〒150-8517 東京都渋谷区松涛 2-20-6
TEL 03-3481-7201 (代表)

本店
〒932-0112 富山県小矢部市清沢 210
TEL 0766-61-4800 (代表)

設立
昭和26年12月22日

資本金
10,329百万円

年商 (連結)
41,559百万円

年商 (単独)
36,141百万円

従業員
1,018名 (グループ 1,554名)

事業所
本店、東京本社、大阪支店、札幌営業所、名古屋営業所、
北陸営業所、福岡営業所

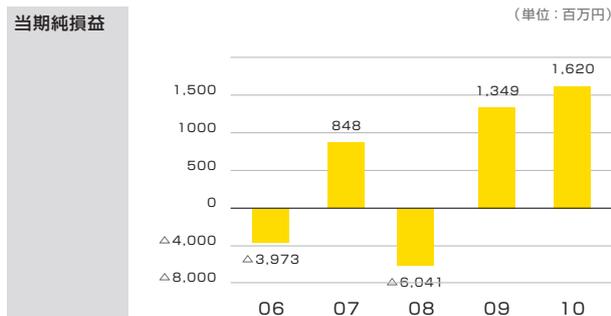
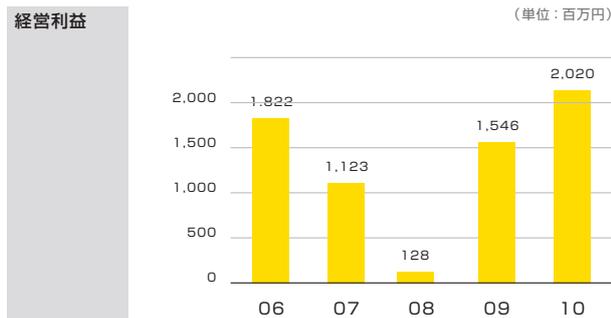
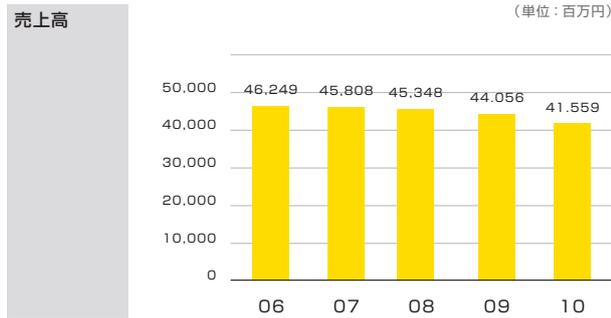
(2010年3月31日現在)

会社概要詳細
<http://www.goldwin.co.jp/corp/info/outline.html>

ホームページ
<http://www.goldwin.co.jp/>

決算公告・決算短信
<http://www.goldwin.co.jp/corp/ir/index.html>

経営情報 連結



経営情報 単独

